

姉齒松平判官（1885～1941）関係資料抄（三訂稿）

—日本統治下台湾法制史の一齣—

（令和 4（2022）年 8 月 2 日（火）現在）

（補正経緯）

HP 初載：平成 21（2009）年 1 月 4 日（日）初稿作成
平成 25（2013）年 4 月 18 日（木）改訂稿作成
（一部補正、追加）
平成 27（2015）年 1 月 12 日（月）再訂稿作成
（一部補正、追加）
令和 4（2022）年 8 月 2 日（火）三訂稿作成
（レイアウト全面変更、一部補正、追加）

はじめに

昨平成 20（2008）年 7 月 3 日、姉齒量平氏（1917～2008）が逝去された。享年 91¹。謹んで哀悼の意を表するものである。十年程前、日本統治下台湾法制史検討の一環として、姉齒松平判官（1885～1941）、戴炎輝博士（1909～1992）等の御業績に接していた折に、同氏から、寔に御懇篤な御示教を賜ったことがあった。当時の御厚情、御高配に対し、改めて厚く御礼申し上げる次第である。

以下では、『戴炎輝博士略年譜・著作目録（初稿）』（平成 10（1998）年 2 月 1 日作成）²中の「3 戴炎輝博士メモ（7）姉齒松平判官のこと」として、姉齒松平判官について書いたものを、現時点で本文を一部補正の上、再録しておくこととする。脚注は、今回新たに付したものである。

なお、姉齒判官については、呉豪人氏に貴重な御玉稿がある³（平成 25 年 4 月 18 日追

¹ 『台湾協会報』第 647 号（平成 20 年 8 月 15 日刊）第 3 面に御訃報あり。姉齒氏は、昭和 15（1940）年台北高校理科、同 18（1943）年台大医学部を卒業された御高名な医師であられるが、御郷里宮城県の郷土史についても、『栗原郡太平記 栗原郡の中世史拾遺』（仙台・宝山堂、平成 3 年 9 月刊）、『中世における日蓮宗奥州布教と登米氏の究明』（宝山堂、平成 17 年 7 月 29 日刊）等多くの御著作を物しておられる。なお、同氏の御経歴、御著作は、ネットで検索できる。例えば、下記参照。

〈<http://www.amazon.co.jp/%E4%B8%AD%E4%B8%96%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E6%97%A5%E8%93%AE%E5%AE%97%E5%A5%A5%E5%B7%9E%E5%B8%83%E6%95%99%E3%81%A8%E7%99%BB%E7%B1%B3%E6%B0%8F%E3%81%AE%E7%A9%B6%E6%98%8E-%E5%A7%89%E6%AD%AF-%E9%87%8F%E5%B9%B3/dp/4832300601>〉

² 戴炎輝博士著作目録の最新稿は、「戴炎輝博士略年譜・著作目録（三訂稿）」『鷲巢敦哉とその時代（続々輯）—日本統治下台湾警察史雑纂第六輯—』（平成 18 年 1 月 1 日作成）83～100 頁であるが、ここでは、姉齒判官関係のものは省略してある。なお、本 HP には、二訂稿（平成 15 年 9 月 1 日作成）をベースとしたものを掲載している。（下記アドレスのみ平成 25 年 4 月 18 日追加）

〈http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui.htm〉⇒その後下記に変更した。

〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf〉（令和 4（2022）年 8 月 2 日追加）

³ 呉豪人「植民地台湾における祭祀公業制度の改廃問題」『日本台湾学会報』創刊号（平成 11 年 5 月刊）54～75 頁 〈http://jats.gr.jp/journal/journal_001.html〉、

〈http://jats.gr.jp/journal/pdf/gakkaiho001_05.pdf#search='%E5%A7%89%E6%AD%AF%E6%9D%B%E5%B9%B3'〉

同「第四章 植民地の法学者たち—「近代」パライソの落とし子」（岩波講座「帝国」の学知 第 1 巻、岩

加)。

「戦前の台湾の法慣習ないし旧慣について、日本統治下での法適用を通して、大きな業績を残されたのは、台湾総督府高等法院上告部判官であった姉齒松平氏（1885.5.5～1941.10.10）である。同氏の御業績も、戴炎輝博士（1909.11.28～1992.7.3）のそれとともに、研究していく必要がある。

姉齒判官には、『祭祀公業並台湾ニ於ケル特殊法律ノ研究』（東都書籍、昭和9年10月刊、(改訂版)：昭和13年2月20日刊）、『本島人ノミニ関スル親族法竝相続法ノ大要』（自己出版か（著者兼発行者とする。）、発行所 台湾日日新報、昭和13年5月6日刊）という大著があり、貴重書とされていた。ただし、これらは、1990年代に入って、台北・南天書局より復刻された（いずれも、1994（平成6）年10月刊）ので、現在では容易に見ることができる。

後の法政大学総長中村哲氏（1912～[2003]）は、当時台北帝国大学文政学部教授であったが、姉齒氏を追悼して、『民俗台湾』第2巻第4号（昭17年4月刊）に、「姉齒松平氏と旧慣法制研究」を寄稿されている。また、同号には、「姉齒松平氏台湾関係論文目録」も掲載されているが、そのほとんどは、上記二著に収録されている。

更に、『民俗台湾』第3巻第4号（昭18年4月刊）30頁は、『台法月報』第36巻第10・11・12号〈マ〉合併号[故姉齒判官追悼論文集]（昭和17年10月10日刊）につき、「台湾本島人に関する法律上の特殊研究に於て不朽の業績を遺せる故台湾総督府判官兼台北帝国大学講師姉齒松平氏の追悼論文集」として紹介しているが、同号には、多数の記念論文とともに、姉齒量平氏「亡き叔父を語る」、鯨沢栄三郎氏（1881～?、弁護士）「姉齒学兄を懐ふ」、小野真盛氏（まもる、西洲、1884～[1965]、高等法院通訳。）「姉齒先生の逸話」等を掲載している。

『台法月報』は、現在もかなりの大学で所蔵している（nacsis webcat ⇒ CiNii、<https://cir.nii.ac.jp/>）では、「第5巻（明治44年）～第37巻第11号（昭和18年11月刊、同号で廃刊）」とある。なお、継続前誌は、『法院月報』第1巻～第4巻（明治40年～同43年）との由である。）が、国立国会図書館には、第23巻第4号～第37巻第11号（昭和4年4月～同18年11月刊、同号で廃刊。）が蔵されているので、一般には、ここで確認できる⁴。

ところで、姉齒松平判官のことについては、氏の跡を継いでおられる姉齒量平氏（台大医学部卒）より、種々御教示を受けた。同氏によれば、姉齒判官には御子息がおられず、令甥である氏が相続されたという。同氏は、先に、お手許の姉齒判官関係の文献として『台北帝国大学文政学部政学科研究年報』第八輯（私法篇）（昭和17年刊）の一部の写しを、御恵投下さった。これは、同輯冒序及び「姉齒判官研究論文『台法月報』登載年譜」であるが、同年譜によれば、姉齒判官は、宮崎孝治郎台大教授（1900～1978、戦後北大法教授）が主宰された台北比較法学会とも、関係を有しておられたとのことである。なお、台北帝大文政学部の講師も兼任されていた。

波書店、平成18年2月24日刊）123～169頁、付録文献解題13～14頁（平成25年4月18日追加）

⁴ 詳しくは、中島利郎（1947～）・宋宜静（1969～）編『『台法月報』総目録』（緑蔭書房、平成11年9月25日刊）参照。

その後、姉齒量平氏は、更に、前掲『台法月報』第36巻第10・11・12号〈マ〉合併号[故姉齒判官追悼論文集]（昭和17年10月10日刊）の関係部分の写しをも、お送り下さった。同号は、既述のように、故姉齒判官追悼論文集であり、多数の学者、実務家の寄稿を得るとともに、姉齒量平氏「亡き叔父を語る」等の回想記をも収録しており、姉齒判官のお人なり、御業績を知る上で、寔に得難いものである。姉齒氏の御厚情に対し、深甚の謝意を表する次第である。

また、先年来、『台湾総督府警察沿革誌』を編纂した鷺巣敦哉氏（1896～1942）⁵の件で、貴重な御教示を戴いている新竹警友会会長大貫敏之氏（1907～[2006]）は、昭和11（1936）年同氏が台湾総督府警察官及司獄官練習所甲科在校中に同所の講師であった姉齒判官より民法の講義を受けられた思い出をも語って下さった⁶。

なお、台湾新民報社発行の『改訂台湾人士鑑』（昭和12年9月25日刊、『台湾人名辞典』として復刻（日本図書センター、平成元年5月25日刊））は、姉齒判官の照影、略歴を掲載している⁷。

【附録】本 HP 別稿日本統治下台湾警察史関係抄

- ・「法制史学者著作目録選」中「日本統治下台湾警察史コーナー」参照（下記はその一部）
<<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>>
- ・台湾総督府警察官及司獄官練習所覚書
<<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/renshujo.pdf>>
- ・旧台湾警察諸警友会の回顧
<<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/keiyukai.pdf>>
- ・明治35（1902）年台北刊行の『警察監獄学雑誌』検討一斑
<<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kangokugaku.pdf>>
- ・東川徳治氏検討一斑—江戸恵子氏「楊舟 東川徳治年譜考」補遺—
<<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/higashikawa.pdf>>
- ・姉齒松平判官（1885～1941）関係資料抄—日本統治下台湾法制史の一齣—（本稿）
<<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/aneha.pdf>>

⁵ 本 HP 掲載の『台湾総督府警察沿革誌』、鷺巣敦哉氏各関係別稿参照。（下記アドレスのみ平成25年4月18日追加、令和4（2022）年8月2日補正）

<<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>>

⁶ 姉齒判官は、台湾総督府警察官及司獄官練習所の講師も長くされていたようである。例えば、『警察職員録 昭和十三年版』（台湾警察協会、昭和12年12月19日刊）6頁掲載の「警察官及司獄官練習所 講師囑託」中に、「高等法院判官 姉齒松平」とあり、『鷺巣敦哉著作集 別巻』（緑蔭書房、平成14年1月31日刊）の口絵⑥「（同練習所）第三十七回甲科練習生修了記念（昭和9年3月27日）」中に、中央の石垣倉治督府警務局長（1880～1942）の向かって左隣に、「姉齒講師」のお姿がある。また、同書320頁には、昭和5（1930）年9月実施の上記練習所甲科臨時試験での姉齒講師担当民法の試験問題が掲載されている。

⁷ <<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/htm/482052044X.html>>、

<<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784832300545>> 各参照。（令和4（2022）年8月2日補正）

- ・『台湾警察協会雑誌』第75号（大正12（1923）年8月25日刊）の再発見について（—『台湾警察協会雑誌』『台湾警察時報』総目録』補遺——日本統治下台湾警察史の一齣—
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saihakken.pdf>〉
- ・中島利郎教授編『台湾地方行政』総目・人名索引〔試行本〕』（緑蔭書房、平成21年9月30日刊）の刊行について〔紹介〕
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakajima001.pdf>〉
- ・リゼンドル（ル・ジャンドル）について—台湾出兵、十五世市村羽左衛門・関屋敏子によせて—
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/legendre.pdf>〉
目黒五郎・江延遠共著『現行保甲制度叢書』（昭和10年初版刊）自序（再掲）—日本統治下台湾保甲制度検討の一として—
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/meguro.pdf>〉
- ・日本統治下台湾史関係写真集一斑一片倉佳史氏『古写真が語る 台湾 日本統治時代の50年1895-1945』（祥伝社、平成27年5月10日刊）刊行に寄せて—
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/katakura.pdf>〉

（了）